

子どもたちの歓声が校舎内外に生き生きと響き渡ります！ 日本人学校が生き生きと鼓動しています！ 10月は読書にもスポーツにも、いろいろな取組をするのにも最高の時です！

■■ 中南米地区日本人学校校長研究協議会（於：メキシコシティ）に参加してきました！ ■■



去る 10 月 10 日（月）～ 14 日（金）まで、校長会に参加してきました。今回は幹事として、その主催の中心を担ってきました。中南米には 14 校の全日制日本人学校があり、それぞれの学校が国の目指すグローバル戦略の拠点として奮闘している姿に感銘を受けました。（写真：日本人学校の歓迎集会の様子）

■■ 日本から本がいっぱい届いた！ 全校読書集会で読書の楽しさを伝える！ ■■

10 月 7 日（金）に全校読書集会を開催しました。財団に注文した本が多数届いたこの機会に、読書の楽しさを伝えるためです。読書クイズやストーリー作りゲームなどで、読書の楽しさを体感しました。最後に、ひとりひとりがお薦めの本を用紙に書いて、楽しい全校読書集会は終わりました。



■■ 今、子どもたちが夢中になっていること！ 卓球、バレーボール、そして、学習発表会！ ■■



子どもたちの歓声が校舎内外に響き渡ります。卓球にバレーボールにと、子どもたちの興味はどんどん広がっていきます。学習発表会に向けての準備や練習にも熱が入ります。スローガン作り、西語全校劇、学活…なんでも誠実に一生懸命やるのがカラカスの子どもです。子どもたちの意欲に圧倒される毎日です。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…（その133）

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 28

心優しいベネズエラの方々の特別な配慮で、カラカス日本語補習学校は歩み出しました。しかし、この後何度となく困難の波が押し寄せてくるのでした。

■ **ボスコ校・シONTAL校時代** ■ 日本語補習学校が開校して1年数ヶ月が経ち、週1回の授業がやっと軌道にのってきた頃、母屋のインスティテュート・エドカシオナル・アルタミラ校が郊外に引っ越すため、校舎がとりこわしとなった。そのため、日本語補習学校はまた、校舎探しをしなければならなくなった。何度かの交渉の結果、ドン・ボスコ校の教室に話が決まった。（クリニカ・アルタミラの近く）学校の引っ越しは、何人かのお母さんが図書の本箱つめや教材教具の運搬作業を応援するためにかけつけてくれた。こうして昭和45年（1970）6月から翌年の12月まで、ドン・ボスコ校で授業を行うこととなった。ドン・ボスコ校は、広い運動場が3面あり、授業前や20分の休憩時間は、男子はサッカー、女子はバレーやバスケットをしていた。低学年はなわとび、鬼ごっこ、ドッジボール等をし、先生方はもとより、当番のお母さん方までが一緒に入って汗を流していた。しかし、それもつかの間、ドン・ボスコ校の事務所拡張と課外活動の開設によって、再度、移転することになった。再三の教室探しの末、二校が同時に補習学校の要求を受け入れてくれた。講師会と委員会でも検討した結果、シONTAL校を選定した。運動場が狭く、ボール遊び禁止という難点はあったが、7教室とコピー室のみならず、図書室の使用を許可してくれた。シONTAL校の校長はじめ、各先生方の心温まる好意は今でも忘れられない。つづく（写真：数少ない補習校時代の45年ぐらい前の写真。）

